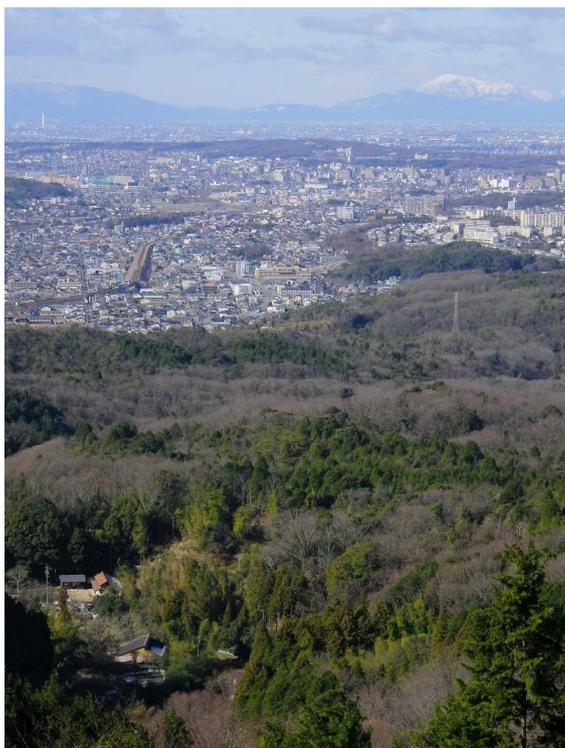




林野庁
東北森林管理局
津軽白神森林生態系
保全センター
平成 30 年 2 月 14 日
No.140

イノシシ生息地の現状（後編）－海上の森－

専門官 有本 実



海上の森を“かいしょのもり”と読める人は、きっと愛知県民でしょう。森の入口付近の一角が、2005 年に開催された愛知万博の瀬戸会場になった場所、と言うとピンと来るでしょうか？ 私が初めてこの森を訪れたのが確か 1995 年、高校 1 年生の時です。当時名古屋市内に住んでいましたが、市街地から東にわずか 20km ほどに位置するこの森の動植物相の多様性に惹かれ、一眼レフや双眼鏡を携えて四季を通じて足繁く通いました。名古屋を離れた今でも年に 1 度は足を運びますが、ここ 10 年程の間にイノシシが急激に増えてきた様に感じます。90 年代には全く見かけず、まさかこんな事態に陥るとは…

①物見山からの眺望(2011. 12. 30) 海上の森はコナラやアカマツなどの二次林、スギやヒノキなどの植林地、田畑や竹林が混在する典型的な里山ですが、林内には歩道が整備されており、体力や時間に応じて色んなコースが楽しめます。森の入口に、愛知万博の瀬戸愛知県館を改修した『あいち海上の森センター』がありますが、その公式 HP 上に海上の森に関する様々な情報が集約されていますので、興味のある方はご覧下さい。(http://www.pref.aichi.jp/kaisho/)

さて、海上の森で一番の展望所『物見山』山頂からの眺望が①の写真です。手前に広がる森が海上の森の一部で、左下に見える家並みが海上集落、森の奥の市街地が名古屋まで続く街並みで、右奥の雪山が百名山の伊吹山になります。海上集落内では、10 年程前から全ての畑がイノシシ進入防止柵で囲われており②、畑に入る際にはカンヌキのついたイノシシ防止扉を開閉するという徹底ぶり



②イノシシ侵入防止柵
(2015. 12. 30)

です③。集落内には、イノシシ捕獲用の頑丈な箱罠も設置されています④。この森の行政区である瀬戸市の公式 HP によると、今年度は鳥獣被害対策実施隊として 22 名の猟友会員を任命し、イノシシ捕獲目標は 350 頭との事でした。



③イノシシ防止扉 (2015. 12. 29)



④捕獲用の箱わな (2016. 12. 29)

海上集落ではこの様なイノシシ対策が行われていますが、森の中に分け入ってみると様々なイノシシの生息痕が見られます。まず良く目につくのが足跡⑤で、歩道脇の干上がった水溜まりなどで無数に見つかります。ニホンジカやカモシカとは異なり、



⑤イノシシの足跡 (2017. 12. 29)



⑥イノシシの糞 (2016. 12. 29)

大きな蹄（主蹄）の後ろに、小さな副蹄の痕跡がつくのが特徴です。前号最後のページに掲載されたイノシシの足と見比べていただけたらと思います。足跡が沢山ついている場所を注意深く探すと、糞⑥も一緒に見つかるかもしれません。ソラマメくらいの大きさの粒状のものが複数個つながっている点が、他の哺乳類の糞では見られない特徴です。

海上の森の南部、通称“野鳥・古窯の森”にある小さな溜池に続くぬかるみが、イノシシ達のヌタ場として使われていました⑦。皮膚についたダニなどの寄生虫を落とすために体を地面にこすりつけて泥を浴びる、即ち“ぬたうちまわる”ので、辺り一面泥沼化しています。じっくり観察すると、めり込んだ足跡やこすった体毛の跡も見受けられました⑧。人間でいう公衆浴場みたいなものでし



⑦ヌタ場 (2017. 12. 29)

ようか？

そして森の中を歩いていて特に目立つのは、イノシシが地面を掘り返した跡です。雑食性のイノシシは鼻を使って地面を掘り起こし、植物の根や茎、ミミズやカエルなどを摂食します。土が露出した所が掘りやすいのでしょうか、歩道脇や林道脇⑨などが特にやられている印象を受けます。イノシシの大好物・タケノコが生える竹林内の歩道に至っては、まるで耕耘機で耕された畑のようになっていて、靴が泥だらけになってしまいました⑩。



⑧又タうちまわった跡



⑨掘り返された林道 (2016. 12. 29)



⑩掘りすぎ！ (2016. 12. 29)

⑪は学生時代、中央アルプス山麓で拾った子どものイノシシの下顎ですが、既にかなり立派な牙が伸長していることが分かります。“もし襲われたときに最も警戒すべきは♂の牙！ 頭突きされるとふくらはぎや太ももがザックリ切られる”とハンターの方から聞いていましたが・・・海上集落の民家のすぐ裏手で、突然目の前を大きな♂がドドドッ！と横切った時はさすがに焦りました⑫⑬。集落の住民の皆様が安全に暮らせるよう、瀬戸市のイノシシ対策が奏功することを願わずにはられません。



⑪幼獣の下顎



⑫民家の裏に・・・ (2015. 12. 30)



⑬成獣♂現る！

前回から 2 箇所 of イノシシ生息地をご紹介してきましたが、もし青森県内にイノシシが増えたら白神山地の森林生態系はどうなるのでしょうか？ あくまで私個人の憶測にすぎませんが、積雪の苦手なイノシシが雪深い北東北で生息域を広げるには、やは

り山麓～海岸部の農耕地帯を伝って北上してくると思います。そこで人間が育てた作物の旨味を覚えてしまうと、わざわざ険しい白神山地の奥山のブナ林まで侵入する可能性は低いのでは・・・神戸市の例の様に、楽をして旨い餌にありつく墮落イノシシが、田畑を荒らし続ける・・・農家の皆様に多大な被害が及ぶような気がしてなりません。環境省や青森県、秋田県と協同で実施しているセンサーカメラによる哺乳類調査ですが、今後はニホンジカの他にイノシシについても監視していきます。

青森市で親子木工教室を開催します

2月24日(土)、25日(日)の両日「白神山地ビジターセンターがやって来た in 青森市」が昨年に続き、青森県総合社会教育センターにて開催されます。自然環境への関心と理解を深めるもので、白神山地周辺の関係団体による様々な催しが行われます。当センターではこのイベントに協賛し、3階の第1工作室にて「親子木工教室」を実施します。当日は臨時駐車場も用意されますので、是非会場に足をお運び下さい。

日 時：平成30年2月24日(土)～25日(日) 午前9時～午後4時

会 場：青森県総合社会教育センター

青森県青森市荒川字藤戸119-7 TEL 017-739-1252



ブナ (2016.2.28 深浦町 十二湖)

今月の一枚

専門官 有本 実

春夏秋冬、同じフィールドに何度も通っているうちに、“これは俺の木だ”などと勝手に決めてその木に会いに行く事自体が目的になる、そんなお気に入りの木が出てくるものです。鶏頭場ノ池の東屋に向かう小径にそびえ立つ、大きく斜めに傾きながらも踏ん張って天空に伸びるブナ。2月末日、前年の秋以来久しぶりに再会した“俺のブナ”は、光の強さを取り戻しつつある陽光を全身に浴びて、・・・もうすぐ春だなあ・・・と呟いていました。

〈発行〉 津軽白神森林生態系保全センター
〒038-2754

青森県西津軽郡鯉ヶ沢町大字米町25-2

電話:0173(72)2931 FAX:0173(72)2932

